

# シラチャ校だより

泰日協会学校  
シラチャ校

06 , 01 , 2010



## トマス・モアの見た夢

新年あけましておめでとうございます。本校も開校して、初めてのお正月を迎えました。昔の数え年の考え方で行くと、本校はこの正月で2歳になりました。お陰様で、学校の体裁もかなり整ってまいりました。

これも、保護者の皆様をはじめ、各方面からのご理解とご協力があったればこそ思っております。本年もどうぞよろしくお願い致します。

学校の中身ということに目を転じてみますと、昨年後半には、子どもたちが、学力、体力、道徳的実践力などで、それぞれの発達段階に応じた力を確実に身につけて来ているとかんじられる場面が多くありました。また、子どもらしい素直な情緒をもって、意欲的に日々の生活を送っている児童生徒の姿も多く眼にすることができました。

後3ヶ月ほどで、卒業式、終了式となり、最初の一年が終わり、新しい年度となります。

4月には新しい仲間も増え、130人~150人ぐらいの学校となるでしょう。2歳となるこの学校が、この後、どのような中身の学校になっていくのか、地域の皆様も、保護者の方々も大いに興味にあるところと思います。

標題の、トマスモアという人は、皆様ご存じのように、ロンドンに生まれ16世紀前半に、「ユートピア」という本を著した人です。彼が、そこへ旅した男から聞いたとされるユートピアという地名は、現在では、どこにもない理想

郷という意味の言葉となって一般名詞化され、世界中に広まっています。

また、近・現代の思想史を見ても、この言葉が、社会の在り方について考えを展開した人々に実に大きな影響を与えた様子を読み取ることができます。

最近のニュースを見ていますと、鳩山内閣の外交政策話題として、日米安保条約締結50周年という言葉をよく耳にします。

私たちの世代なら、実感としてそれをよく振り返ることができますが、60年安保、70年安保といえ、その時代、若者たちがより良い社会の在り方を巡って大いに議論を戦わせた時代でした。

勿論、私も、その時代の雰囲気の中にいました。大学が騒乱状態で1年以上も満足な講義が行われないという大変な時代でしたので、私自身も、少なからず社会の在り方を考えていたものです。

ユートピアは、空想的な理想郷だ、夢物語だといわれます。

けれど、この夢物語は、いつの時代でも人々に影響を与える夢です。今ではコマーシャルなどに多用されているところを見ても、それがよく分かります。

ユートピアは身近にはないが、決して消えない夢です。

一方、夢ではなく科学的だとされ、それで理想社会を築けるとされた共産主義の壮大な実験は、ことごとく失敗の裡に終わっています。なぜかという、

人間のもつわがままさや精神的な弱さがそれを許さないのだと思います。考え方は理想的でも、皆が幸せになることを考えて行動できる人は少なく、できない人がほとんどだからです。簡単に言うと私たちの愚かさが、なかなか社会を前進させません。

ユートピアは、現実にはどこにもないからユートピアです。でも、その夢は誠に魅力的な夢です。

私は、ずっと以前からですが、折に触れて、もしかして小さな集団なら、気持ちが合わせられれば、かなり良い社会を実現できるかも知れない、と考えることがあります。

タイのシラチャという所には、皆が仲良く、笑顔に満ちていて、子どもたちはよく努力し、誰も友達からいじめられめたり、粗末に扱ったりされず、協力し合って物事を成し遂げ、知らない間に学力も体力も心も向上させている。そんなすばらしい学校があるんだ。...そう旅人に言われるような学校を皆で作る。皆が同じ夢をみて、このシラチャ校に何が大切かが分かり、周りの人を思いやることの大切さが分かるようになると、もしかしてそこに近づけるかも...

トマスモアではないけれど、これは私がこのシラチャ校にいる間は決して消えない夢のように思います。

...皆が同じ夢を見てくれないかな。建前でなく自らの気持ちで...。これが今年の私の初夢...

(校長)